

平成29年度 浜松開誠館中学校・高等学校 学校評価(自己評価)

教育方針	体罰といじめの根絶・笑顔が弾ける德育の開誠館
重点目標	①K-compass・7つの習慣J・クエストエデュケーションを通して德育教育活動の推進をする。
	②本校No.1の教職員を目指し、一人ひとりの存在感を示す。浜松開誠館教育の底上げを図り、創立100周年No.1を目指す。
	③教職員も生徒も全員が「立ち止まり挨拶」が実現できる指導と努力をする。
	④「ICT教育」と「グローバル教育」が高い評価を受け「未来戦略」の安定した柱に育てる最大限の努力をする。

学校関係者評価委員の評価について

A:適切 B:どちらかという適切
C:どちらかという適切でない。 D:適切でない。

学校関係者評価委員による評価

評価項目	目標	具体的な活動・取り組み	担当者	判定	自己評価	改善策	自己評価は適切か	改善方策は適切か	評価の理由、ご意見
德育指導	・「誠心・敬愛」を意識して、德育教育で豊かな心を育てる。 ・生徒自ら未来を切り開く力を身に着ける。	・「K-compass」「7つの習慣J」によって、心を育てる教育、自己実現に必要な力を育成する教育を実践する。 ・「クエストエデュケーションプログラム」によって、主体性と創造性を育てる教育を実践する。 ・ロールモデルとして外部講師を招き、夢力講演会を開催する。	德育進路部長	B	・德育教育の効果を成長実感に繋げるための取り組みを、周知徹底するアプローチを強化する必要があった。 ・德育教育は「K-compass」と「7つの習慣J」が土台であることを、今以上に知ってもらうための取り組みが必要であった。 ・全教職員が「7つの習慣J」の本を読み、德育教育が啓発できた。	・取り組みの広報活動を行う。 ・今一度、「德育教育」の定義を教職員(生徒、保護者も必要に応じて)に対して行い、「德育教育」の担い手としての意識醸成を行う。 ・「7つの習慣」をベースとした語り掛けの材料を提供し、日常の教育活動に反映できるようなサポートを行う。 ・德育教育のさらなる意識醸成へのアプローチを行う。	A	B	生徒への7つの習慣Jのまとめがよくわかるように校内にポイントを掲示したらよい。親学講座は何かのイベントと抱き合わせて実施したほうが良い。
学習指導	・学習環境の整備を行い、授業力の向上を目指す。	・「授業の形」を徹底させる。 ・教員の授業参観や教科会議での討論を活発に行う。 ・教授方法を工夫(アクティブラーニングやICT機器の積極的な活用を含む)、授業改善等に積極的に取り組むよう、研究的雰囲気高める。	教務部長	A	・学校評価「授業の形の徹底」についてA+B 教員96%、高校生87.4%、中学生89.7%である。生徒も教員も整備された学習環境で学習活動ができていた。 ・年5回他の教員の授業を見学し自己研鑽をすることができた。 ・教科会議では、アクティブラーニングの実践やICT機器を活用した授業の実践例を共有することができた。	・「授業の形」については、学習者の心構えと捉え継続して取り組んでいくべき事項である。 ・授業参観や教授法について、考え討議することは授業改善につながり、教育の質の向上に欠かせないものであるため、今後も継続して取り組んでいく。	B	B	学習の指導の評価が低いのは学習指導が充実していないからである。先生によって指導力の差がないように学習指導に力を入れるべきである。放課後などに今以上に学習指導をしてほしい。
進路指導	・中1から高3までの6年間を通して連携を図る。特に、高3では、進路相談を充実させ進路保証をする。 ・進路を現実的に捉えさせ、進路意識の向上を図る。	・進路情報の収集・処理・発信を適切に行う。 ・学年教員との連携を図り、計画的・組織的な指導ができるように援助をする。 ・生徒の主体的な活動を援助できるように、進路指導室の充実を図る。	德育進路部長	B	・進路実現に関しては、ほぼ満足が得られた。 ・体系化された進路指導の流れを周知徹底させる取り組みが不足していた。 ・進路指導力を向上させるための情報提供などを行った。	・高校新入生には、3年間の指導計画をより分かりやすい形で提示する。 ・進路指導マニュアルを整備する。	A	A	手厚い指導がなされている。今後さらに進路情報を流してほしい。進路指導は早めの指導と、新しい動きについての情報を出してほしい。
人格品格指導	・教職員、生徒、全員の「立ち止まり挨拶」の実現を図る。 ・教職員全体が連携して統一した指導を行い、責任のある行動のとれる生徒を育成する。	・あいさつチケットを実施し、教職員の意識を向上させる。 ・あいさつ標語の募集ならびに掲示 ・教職員、生徒へ生徒指導方針を提示する。 ・定期的に集会を行い教員間で情報を共有する。 ・日報発行によるタイムリーで統一した指導を実施する。	人格品格指導部長	B	・あいさつ啓発運動の効果もあり、年間通して教職員、生徒が自ら立ち止まりあいさつができるようになった。 ・人格品格指導部の教員間を中心に情報共有さらに他の教職員に発信でき、昨年までと比較しても問題行動数が減少し、学校生活を安心かつ安全な状態にできた。	まず声を出してあいさつするところを大切に、その中で「立ち止まりあいさつ」を教職員、生徒がTPOに合わせて自然にできるよう継続して意識を持たせ、さらに指導をしていく。	A	A	立ち止まり挨拶ができるようになってきていることは大変良い。今後は、自転車走行時のマナー指導にさらに力を注いで欲しい。
保健安全管理	・相談しやすい環境を確立する。 ・いじめの未然防止、早期発見に取り組む。 ・防災意識の向上を図る。	・関係者と連携のとれた教育相談活動を実施する。 ・生徒理解のための一覧表作成や検査を実施する。 ・教育相談的な視点に関する参考資料・実践事例を紹介する。 ・いじめアンケート等を実施し、結果をまとめる。 ・避難訓練(年3回)を実施し、防災意識を高める。ヘルメット、防災頭巾を常備し、防災グッズの保管場所についても周知する。	人格品格指導部長 (保健教育相談) 総務課長	B	・生徒理解のための一覧表作成、いじめアンケート(2回)、hyper QU(高2以下)を実施し、生徒理解やいじめ早期発見や抑止に努めることができた。 ・定期的に防災避難訓練を実施し、防災意識の向上が図れた。 また、校内研修会で、全教職員が防災関係の各班に分かれ、地震・火災発生時の対応についての打ち合わせを実施。消火器や防災備蓄用品の場所や使用法、数の確認をした。	・生徒からのサインや兆候を感じとる感性をさらに磨いてもらうために、教育相談的な視点に関する参考資料の提供の仕方を工夫する。 ・防災避難訓練は定期的に行っているが、今後も生徒が防災意識を絶えず持つように防災教育を継続して行う。	A	A	今まで以上にいじめがなくなるように努力してほしい。いじめがあった際、保護者のクラス会を開いてほしい。いじめる側といじめられる側に温度差がある。教員も今まで以上に目を配り子供たちに根気強く教育する必要がある。
研修(資質向上)	・教職員がそれぞれNo.1を目指し、自己研鑽の機会を積極的に持つ。	・公的機関で実施する基本研修への参加を支援する。(初任者研修、年次研修、中堅・リーダー研修) ・専門研修を支援する。(自主研修や外部研修の推奨) ・校内研修を支援する。(効果的な校内研修実施)	中・高副校長	B	・公的機関での研修参加については、しっかりと促すことができた。 ・研修報告においても、研修者にとって有意義な研修会であり、学んだことも多いことが理解できた。	・現在は初任者研修、夏季研修が主であるが、若い教員も増えているので、年代別の研修、課題項目別の研修なども考えていく。	A	A	特に問題なし
保護者・地域住民との連携	・学校の様子を知らせる機会を設けるとともに、信頼される学校を目指す。	・学校行事、部活動報告などを適時、本校HPで紹介する。また、プレスリリースをし本校の取り組みをマスコミを通じて紹介する。 ・地域住民の方々を文化祭、体育大会等の学校行事に招待し、学校の様子を知っていただく。	総務課長 広報部長	B	・行事や部活動の様子などをその都度HPIに掲載して知らせることができた。また、マスコミにも学校の事を新聞記事や雑誌などで多数紹介された。 ・地域住民の方々の中には、学校行事を毎年楽しみにして下さっている方もおり、満足する時間を過ごしていただくことができた。	・HPへのブログ掲載まで時間が掛かったことや部活動によって掲載したブログ数に違いがあるため是正していく。 ・自治会の会長さんや保育園の園児など、来校者が固定しているため、他の立場・年齢層の方にも来校していただけるような案を考える。	A	A	保護者が自家用車で生徒送迎の際、近隣の公道で停車するのは良くない。ロータリーや地下駐車場で行うように徹底したほうが良い。教員が三角公園で喫煙する姿はよくないと感じる。
グローバル推進	・グローバルマインドとグローバルスキルの育成を図る。	・生徒と保護者に満足してもらえるネイティブ担任のクラス運営の成功に努める。 ・英会話力向上を目指す。 ・検定において、学年目標達成を目指す。	グローバル推進課長	A	・体験活動を積極的に行い、考え、発信する機会を生徒に与えることができた。一方、AOや推薦を通して第三者機関に評価されるに値するほどの成果や、将来の展望に影響するほどの活動や意識に影響を与えられるほどの教育活動に関しては改善の余地がある。	・年度初めに評価基準を配布し、生徒がどのように努力すれば何に優位となる評価を得られるか、努力目標の設定をしやすくなるよう提示する。 ・積極的に進路活動(ボランティア、アルバイト、企業研究、催事参加、情報収集)に関わる姿勢づくりをさらに初期指導で徹底する。	B	B	ふじのくにグローバルハイスクールの指定校に選ばれたことは素晴らしい。グローバルコースは1年目であるがよく頑張っている。10月と2月のグローバル発表会は充実した内容であったので、今後さらにこのコースについて周知できるとよい。また、モンゴルやオーストラリアへの短期留学を実施していることは大変良い。
スーパー文理推進	・国公立大学合格者2桁以上をコンスタントに維持できる体制を構築する。 ・生徒の進路意識を向上させる。	・スーパー文理クラス担任の情報共有のために定期的に会議を行う。 ・夜間開放と放課後自学の指導、運営を行う。 ・進路意識向上のための行事(夢ナビライブ参加)の計画・立案を行う。	スーパー文理推進課長	B	・毎週1回スーパー文理クラス担任で会議を持ち、縦の繋がりを意識し、時期に応じた指導の情報共有や相談を行い、スーパー文理コースの進学指導の体制作りを目指した。 ・夜間開放と放課後自学の指導を行い、生徒の学習時間の確保に努めることができた。 ・講習会、勉強会宿だけではなく各学年時期に応じた進路行事を行い、進路意識向上のきっかけになった。	・スーパー文理コースへの帰属意識を高め、生徒の学習に対する意欲の向上、教員の指導力向上を目指していく。 ・日々の語りかけの中で、生徒の進路意識を向上させていく。	A	A	スーパー文理コースの指導はよくやっている。その結果、生徒の考える力もついている。このコースの「大学受験合格までの指導がきちんとしてもらえる」ことが定着するとよい。